

The background features several overlapping architectural site plans. A hand is visible on the right side, pointing with a pen at a specific area on a map. The map shows a green landscape with a blue water feature and various building footprints. The text 'タマリズム最終報告書' is overlaid in large white characters across the center of the image.

タマリズム最終報告書

東京都立大学 チームF

(東京都立大学 都市環境学部 観光科学科 3年)

牛島滉基 竹中友麻 飛松涼太 永野沙代子

- 1, 企画決定までの流れ
- 2, サンクチュアリ活用検討会
- 3, 成果・今後の展望



1. プレーパーク

遊び場を自分たちで想像
多摩の自然を肌で感じる
自然の楽しさを知る



2. キャンプ

1日を通して自然満喫
季節ごとのプログラムも用意



3. 環境教育

楽しく学ぶ
・レンジャー体験プログラム
・飼育プログラム

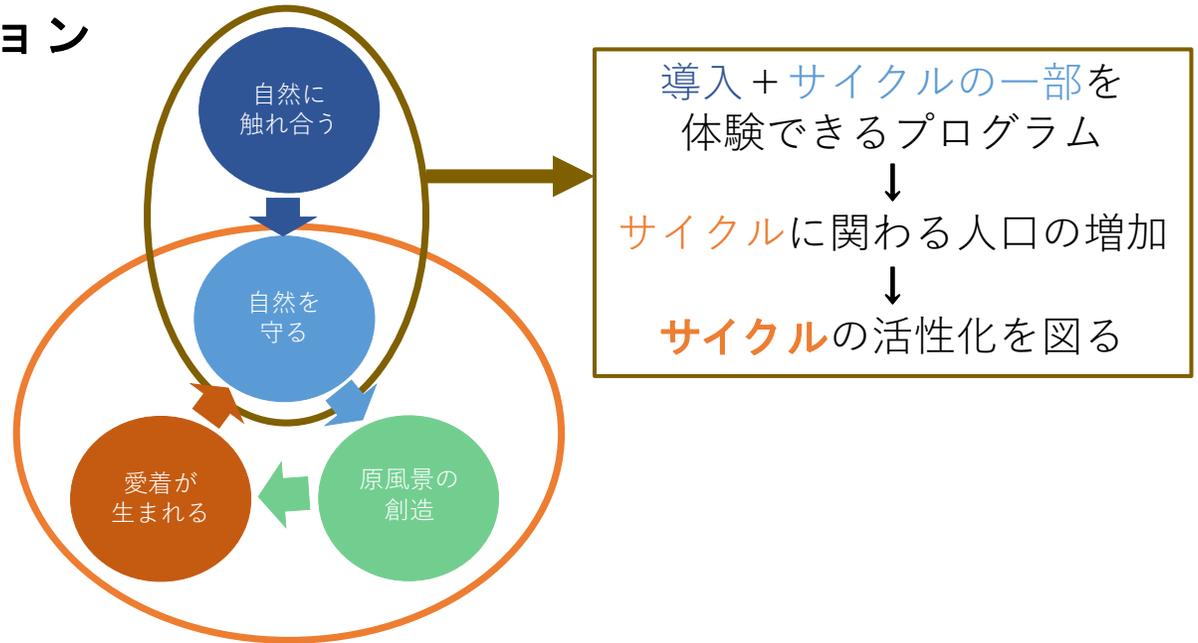


●OYASOBIで重視していたこと

「閉鎖的なサンクチュアリへの親しみ・理解の向上」

- ・キャンプ、プレーパーク→自然で遊び、自然への親しみ向上（導入）
- ・環境教育→サンクチュアリや生態系の重要性を理解（メイン）

ビジョン



1, 企画決定までの流れ — 検討会の実施の決定 —

●実施できることの整理

獲得した支援金で企画（OYASOBI）を実行したいが…

- ・ 小山内裏公園を管理する東京都公園協会の協力、許可が必要不可欠。
- ・ 企画実行までにはハードルが多い。
- ・ 最終報告会までの期間は限られている。

→今回のタマリズムでは、東京都公園協会職員を交え、OYASOBI企画の中で実現可能なものを具体化していく”**検討会**“を行うことに決定。

検討会で対象とするテーマ設定のため、東京都公園協会職員の方に事前ヒアリング（11/9, 20）を行った。

1, 企画決定までの流れ —事前ヒアリング①—

●事前ヒアリング (11/9)

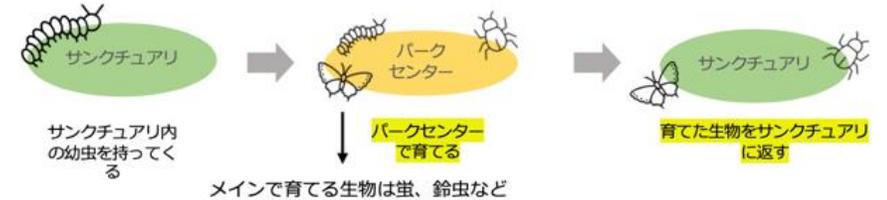
- プレーパーク、キャンプの実現は難しい。
 - **環境教育** (レンジャー体験、飼育プログラム) については**高評価**。
 - レンジャー体験プログラムと似たイベントを既に数回開催。
- 飼育プログラム**を核とした企画の実施

●飼育プログラム

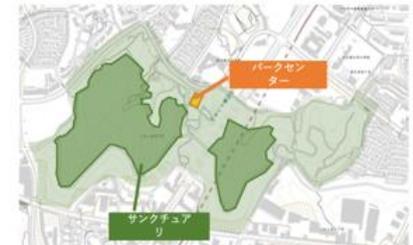
- パークセンター内でサンクチュアリの生き物を飼育。
- 成虫になるとサンクチュアリに返す。
- 「**サンクチュアリに入らず、サンクチュアリ内の貴重な生き物と触れ合える**」

Ⅱ 飼育プログラム ~自分の手で【未来の自然】を育てる~

- 目標** 貴重な生物と触れ合える機会を得る、生物の多様性、尊さを知る
- 概要** レンジャーがサンクチュアリ内で幼虫を採取し、パークセンターに持ってくる。それを子供達が名前をつけて餌をやったり、観察をする。成虫になったら、子供達がサンクチュアリ内にそれらを返す。



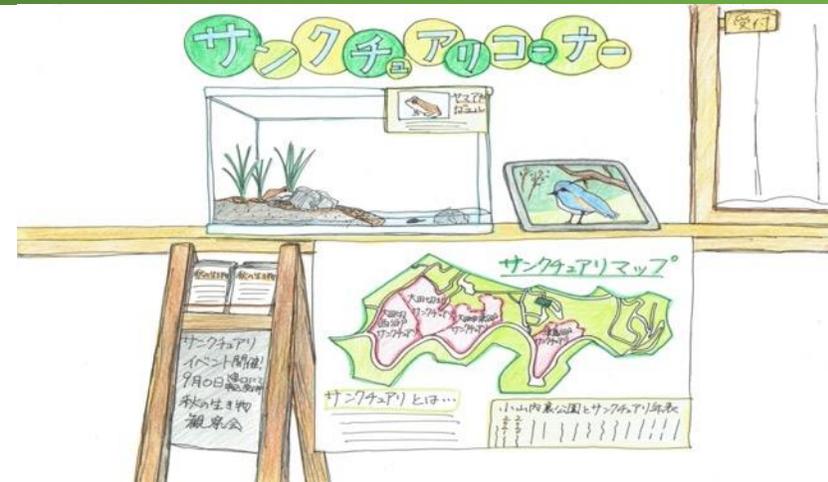
自然と触れ合い、自分の手で育てた記憶が
子どもたちの原風景になる



1, 企画決定までの流れ —事前ヒアリング②—

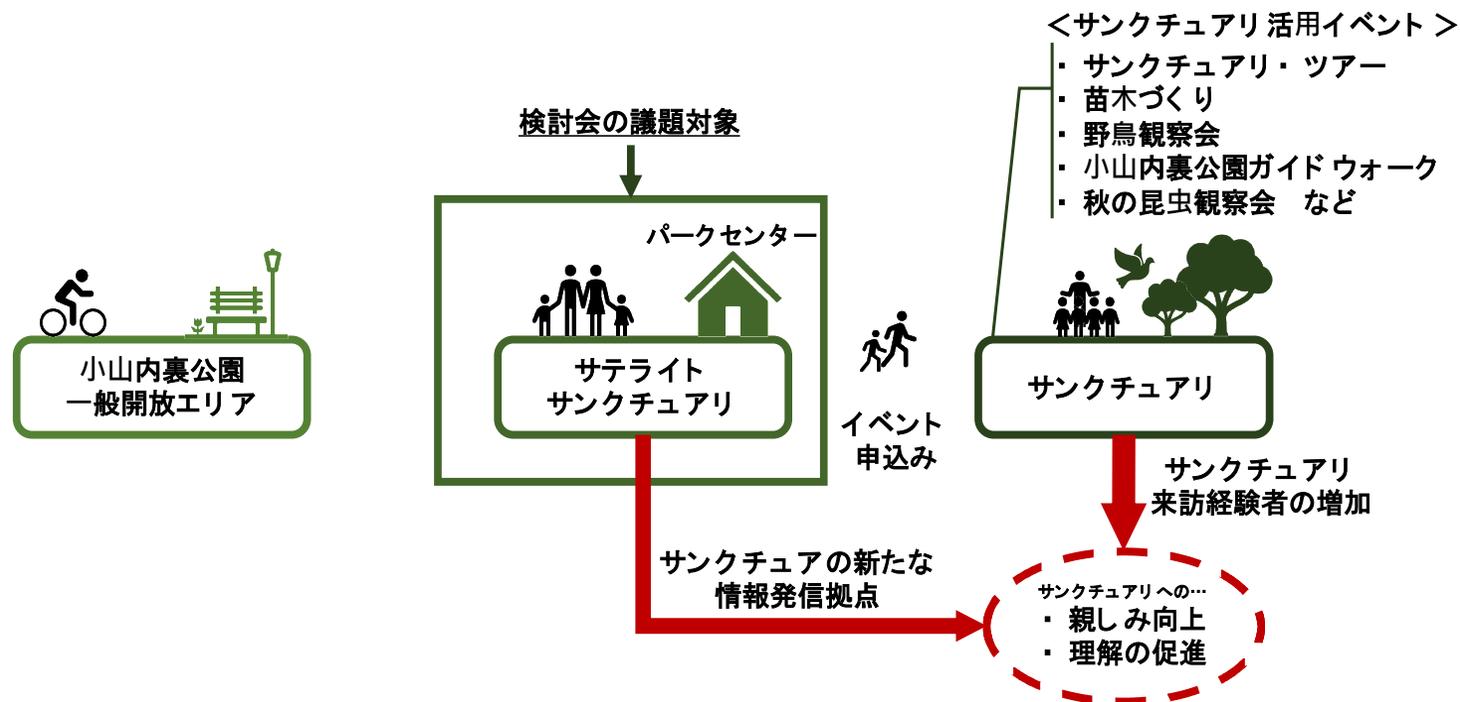
●事前ヒアリング (11/20)

- ・サンクチュアリ活用イベントは、**コロナ禍で周知活動に苦戦**
- ・11/20に開催されたイベントでは参加者が2人（親子参加）のみ
- サンクチュアリに関する**情報発信拠点**があればいいのではないか
- サテライトサンクチュアリの考案



●サテライトサンクチュアリ

- ・飼育プログラムを派生
- 「サンクチュアリに入らず、サンクチュアリに関する様々な情報を知ることができる」



1, 企画決定までの流れ —参加主体の追加—

●持続可能な運営のために

- ・ 企画を具体化するにあたり**運営主体**を考えることは必要不可欠。
- ・ 来年度で4年の**東京都立大学チームF**のメンバーだけでは中長期的な計画への参画は難しい。
- ・ **企画を単年度で終わらせない**ためには**世代交代**が行われる**団体の協力**が必要。

→生き物を飼育・調査するサークルへの協力依頼

→都立大ボランティア団体「**いきもの！サークル東京**」の巻き込みに成功

●いきもの！サークル東京

- ・ 生物観察、採集、大学構内でのビオトープづくり、生物展示などを行っているサークル。
- ・ 生態学的な意見、生物飼育に関する助言に期待。

2, サンクチュアリ活用検討会 — 企画書概要 —

実施日程・場所：

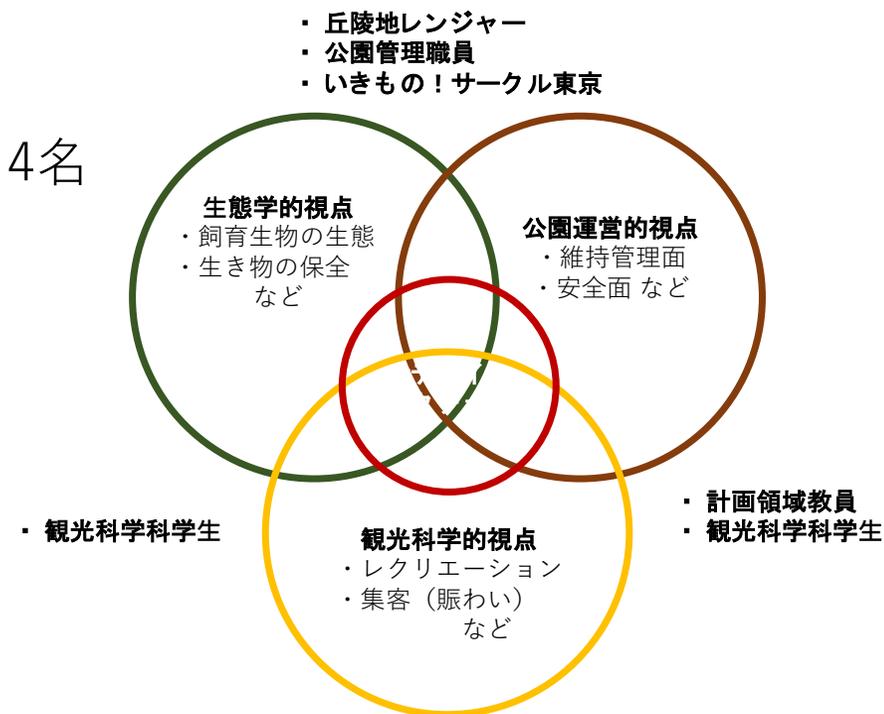
2021/12/2(木)10時～12時 小山内裏公園パークセンター大研修室

参加者：

- ・ 東京都公園協会職員 2名
- ・ 小山内裏公園パークセンター長
- ・ 小山内裏公園パークセンター丘陵地レンジャー
- ・ いきもの！サークル東京（東京都立大学ボランティア団体） 4名
- ・ 東京都立大学教員 2名
- ・ 東京都立大学チームF 4名

議論内容：

- ・ 飼育プログラムのイメージ像の共有
- ・ 飼育プログラムの方法の選定
- ・ 動植物、場所、時期、準備期間の検討
- ・ サテライトサンクチュアリに必要な要素、デザインの検討



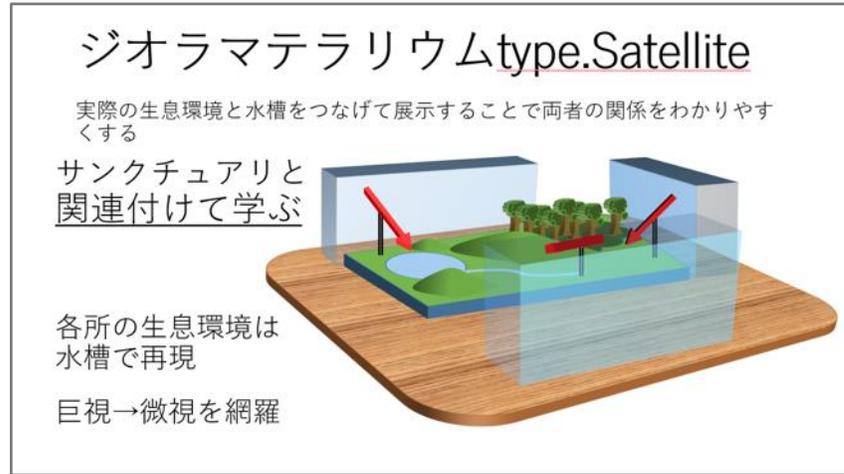
2, サンクチュアリ活用検討会 ー当日の様子ー

議題「サンクチュアリ活用検討会～サテライトサンクチュアリの考案～」

①各主体が事前に考えたサテライトサンクチュアリのイメージ図を発表



小山内裏公園パークセンター



いきもの！サークル東京



観光科学科チームF



2, サンクチュアリ活用検討会 ー当日の様子ー

②イメージ図を基に、サテライトサンクチュアリの詳細を検討

●場所の検討

- ・誰でもアクセスしやすい位置
- ・平坦で広いエリアは、高齢者や障がい者も訪れることができる
- ・駅や商店街に出張できる移動可能なもの

●動植物及び飼育方法

- ・水生生物よりも土に住む生物の方が管理しやすい
- ・ジオラマを使い簡易的にサンクチュアリの環境を再現する「ジオラマテラリウム」
- ・ビオトープの作成



ペンと付箋紙と模造紙を用いて、意見同士を繋げた



会場内に展示された
フライヤー



2, サンクチュアリ活用検討会 —当日の様子—

②イメージ図を基に、サテライトサンクチュアリの詳細を検討

●展示における工夫点

- ・プロジェクションマッピングの活用
- ・ジオラマを使ったタイムトラベル
- ・透明BOXに落ち葉を入れ、展示の中を見せる
- ・イベントとしてジオラマテラリウムを作る企画

●集客について

- ・興味のない人や興味の薄い人に来てもらいたい
- ・リピーターになってもらいたい
- ・体験活動が良い
- ・四季を利用する
- ・遠隔地、リピーター、お土産がポイント



当日の様子



3, 成果・今後の展望

●今回の検討会で得られたこと（成果）

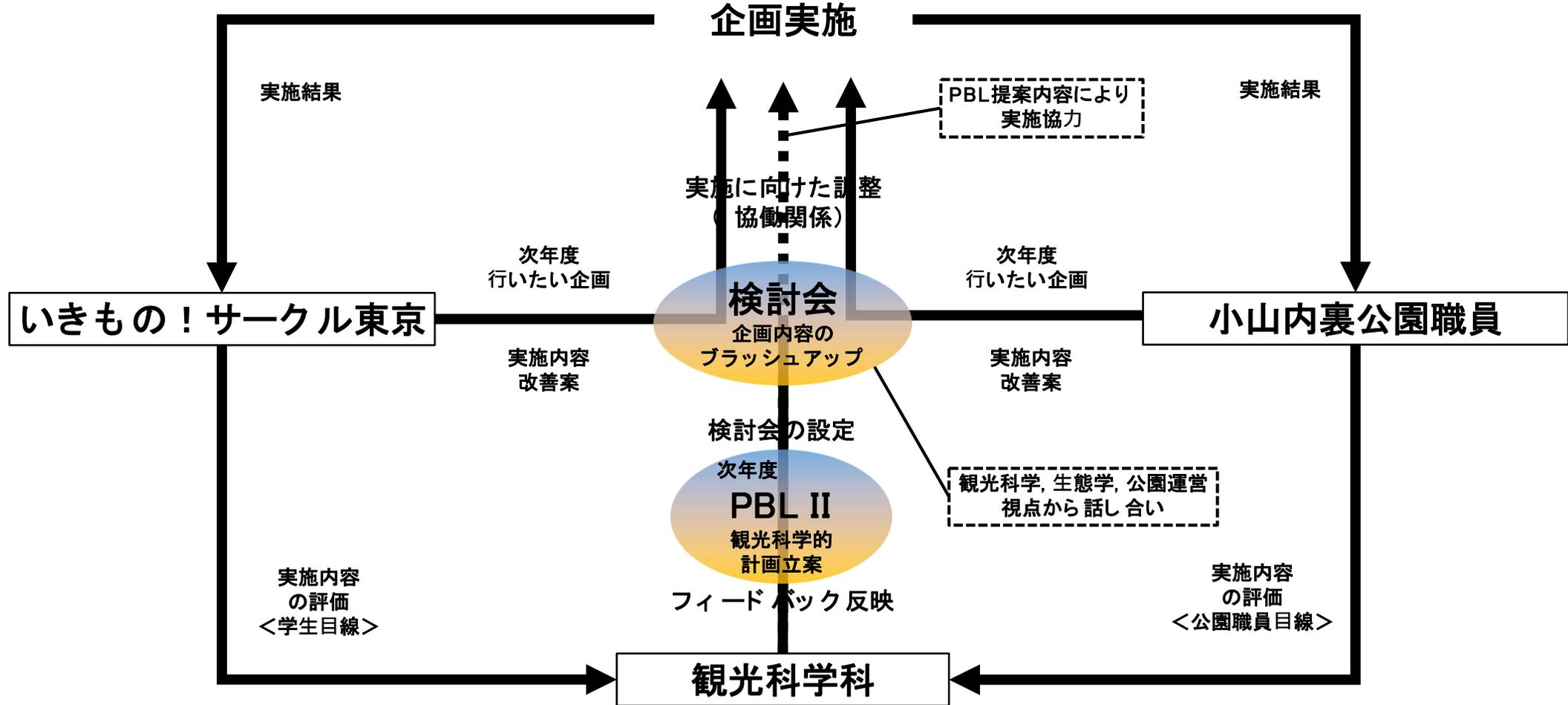
- OYASOBI企画内容のうち実現可能性の高かった飼育プログラムを、さらに公園の要望に合ったサテライトサンクチュアリという形に発展させることができた。
- サテライトサンクチュアリ実現に向け、参加主体を増やして様々な角度からの活発な議論を行えた。
- いきものサークル東京はサンクチュアリのある小山内裏公園での活動・実験の場を手に入れ、公園協会は地域の強み（大学生との連携）を活かした取り組みを行えるようになった。（協働関係の構築）
- 公園協会、いきもの！サークル東京双方から、議論を基に次につながる企画書を作っていただけた。



3, 成果・今後の展望

●次年度以降の協力体制 (PDCAサイクル)

P_{lan} D_o C_{heck} A_{ct}
(計画) (実行) (評価) (改善)



ご静聴ありがとうございました！

